

リンゴの入手困難期の代替餌に関する検討

飯島 遥

横浜市立金沢動物園では主に草食動物を飼育展示している。使用している主な餌は乾牧草や青草、ペレット類、青果類などで、青果類のうちリンゴの使用量は 17% (7kg/日) を占める。平成 24 年度より B 級品のリンゴの購入を開始したが、近年の天候不良による不作の影響で収穫時期以外には在庫が品薄となることに伴い、今年 6 月より安定した入荷ができなくなった。そのため、リンゴの代替餌の検討と変更を行った事例を報告する。

変更方法は以下の 2 種類で、①リンゴの給餌を中止し他の品目に転換した場合と、②入手できる範囲内でリンゴの給餌を継続しつつ足りない量の代替餌を検討した場合である。②に該当するのは、高齢動物やリンゴの給餌量が少量の動物などであった。

リンゴの代替餌への変更時の留意点や動物の体調について、①カピバラ、②高齢のベアードバクの飼育担当者に聞き取り調査を行った。①カピバラ 2 頭は慣れない品目を拒む個体であるため、リンゴ (1.2kg/日) の代替として、過去に食べたことのあるレタス (0.4kg/日) と大根 (0.4kg/日)、通常も与えているサツマイモ (0.4kg/日) を追加した。リンゴ給餌時に軟便が見られていたため、変更品目には繊維成分 (27.1%増) と水分量 (2.5%増) の向上、同時に大根には消化酵素の働きを期待したが、便状の回復には至らなかった。②ベアードバク 2 頭は高齢のため、嗜好性の高いリンゴを少量でも給餌し続けることで一定の採餌量を維持したいとの担当者の希望から、今までのリンゴ給餌量 (2.8kg/日) の 36% (1.0kg/日) を継続し、減量分の代替として通常与えているキャベツを 1.8kg/日追加して、全体の給餌量を確保した。その結果、採餌量の低下は見られなかった。

今回、リンゴの代替餌への変更による各動物の体調に大きな変化は見られなかった。9 月よりリンゴの入荷量が回復してきたため、給餌内容を元に戻しつつ、動物の体調を経過観察している。

リンゴに限らず、今後も気候変動や農作物の動向に注視しながら、代替餌が必要な状況が発生した場合には、今回の経験を踏まえて、動物管理に支障のない代替餌の検討に取り組んでいきたい。